

ついでに 出版録

アメリカ・ミシガン州の小さな町のレストラ
ン。お昼時、いつものよ
うに談笑する人たちに突
然ふりかかった銃乱射事
件。店内に居合わせた2
人が殺され、犯人は自殺
した。物語は、惨劇に巻
き込まれながらも九死に
一生を得た5人の男女の
内面の軌跡が、それぞれ
の視点から克明に描かれ
る。

事件後、被害者たちは
自分の人生になぜこんな
理不尽なことが起こった
のか、その理由を見いだ
そうともがきながら、ど
んどん異常な行動へと駆
り立てられる。宗教的な
陶酔、キャンブルへの衝
動、我が子への虐待、深

ブレイキング・ポイント

ロイ・フライリッチ著、船越 隆子訳



重いテーマ 簡潔な文体

刻な自信喪失…。平穏な
日常から切り離され、親
しい人々とのつながりも
失い、その絆によって支
えられていた「自分」と
いう感覚さえも寸断され
てしまうのだ。そのよう
な崩壊感覚の迷路に陥っ
たとき、安定した日常へ
の回復は、はたして可能
なのであろうか。

この物語で被害者たち
を救ったもののひとつ
は、家族の絆であり愛情
であった。ヘドリスは、
なぜと問うのをやめた。
…アンがここにいてくれ
る。それで十分だ。日ご

とにその一瞬一瞬を積み
重ね、互いに少しずつわ
かり合っていく。喜ひと
は、ごく単純なことなの
だ。こう記されるよう
に、普通の日常のささや
かな営みの中に安息を見
いだし、彼らは自分自身
を取り戻してゆく。

ベテランの映画脚本家
による原作は、映画化も
された問題作であるが、
重いテーマをほどよいテ
ンポと緊張感で読ませる
のは、訳者の理知と簡潔
な文体の功績でもあるろ
う。井上勲、中野好夫、
野上彰、秘田余四郎な
ど、徳島は豊かで個性
的な翻訳家を輩出して
いる。本県出身のこの訳者
のさらなる活躍に注目し
ていきたい。

(砂)

◇
訳者は徳島市在住。小
学館文庫。860円。